ホンダ
F210

Plant Plant

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
ホンダF210は、小型、軽量で汎用性に富んだティラーです。
安全、快適にお使いいただくために正しい取り扱いをしなければなりません。

トレーラー走行はできません。

(小型特殊自動車の認定を受けていません。)

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

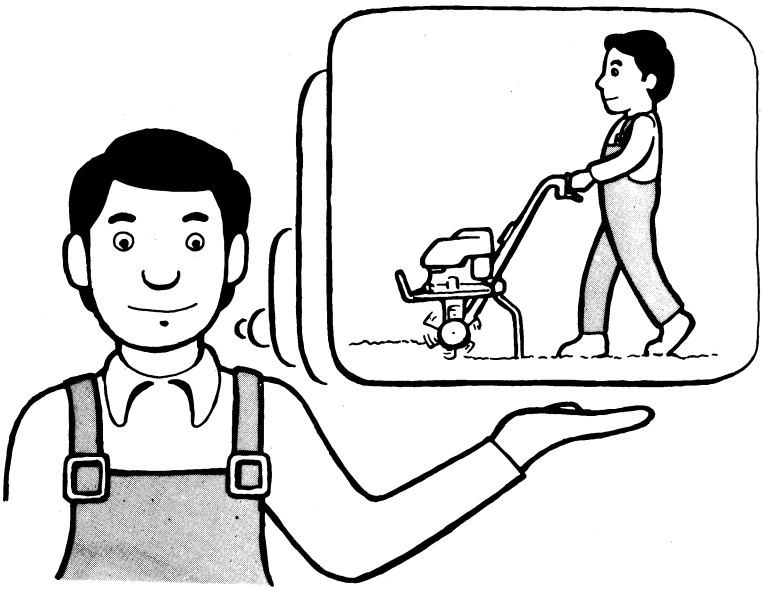
目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8
エンジン スイッチ …… 10
エンジン回転調整レバー …… 10
クラッチ レバー …… 11
始動グリップ …… 12
チョーク ノブ …… 12
作業機取付部 …… 13
ハンドル高さ調整ツマミ …… 14
ハンドル固定レバー …… 15
耕うん爪 …… 16
エンジンをかける前に点検しましょう …… 17
ガソリンの点検 …… 17
エンジン オイルの点検 …… 18
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 …… 19
変速機オイルの点検 …… 20
エンジンのかけかた …… 21
運転操作のしかた …… 27
1．クラッチ レバー …… 27
2．エンジン回転調整レバー …… 28
エンジンのとめかた …… 29
定期手入れを行いましょう …… 31
日常点検 …… 31
定期点検 …… 32

やさしい点検・整備 ……33
エンジン オイルの交換 ……33
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃 ……36
点火プラグの清掃、調整 ……37
エンジン回転調整ワイヤの調整 ……38
クラッチ ワイヤの調整 ……39
燃料ろ過器の清掃 ……40
長期間使用しない時の手入れ ……42
バッテリの補充電(KSHタイプのみ) ……44
故障のときは ……45
車への積載のしかた ……46
主要諸元 ……48
同梱部品の組み付けかた ……49

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

ティラーの取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。



●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。

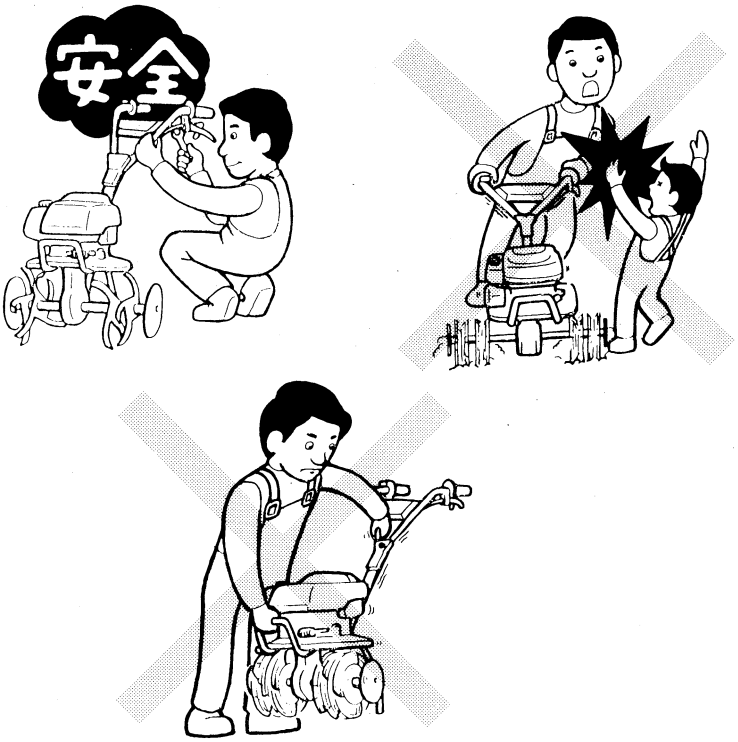
★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

★子供を乗せたり、近寄らせないこと。

★工具を適切に管理し、正しく使用する。

★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。

★本機を持上げる時は、必ずエンジンをとめてください。



●作業を始める前に

★必ず点検、整備を行う。

・点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行う。

・屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意する。

★防護装置の保全

・防護装置は正しく取付けられているか。

・点検、整備のため取外された防護装置は正しく復元され、確実に締付けられているか。



●作業中の注意

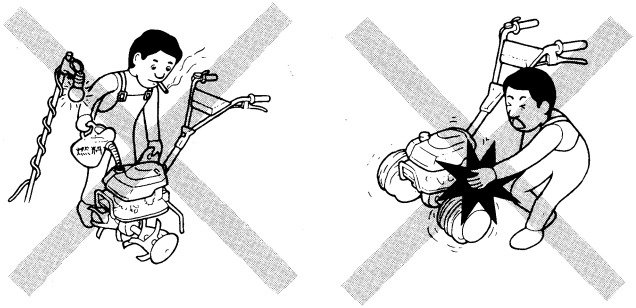
★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。

★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。

★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。

★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときは、アユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく危険です。

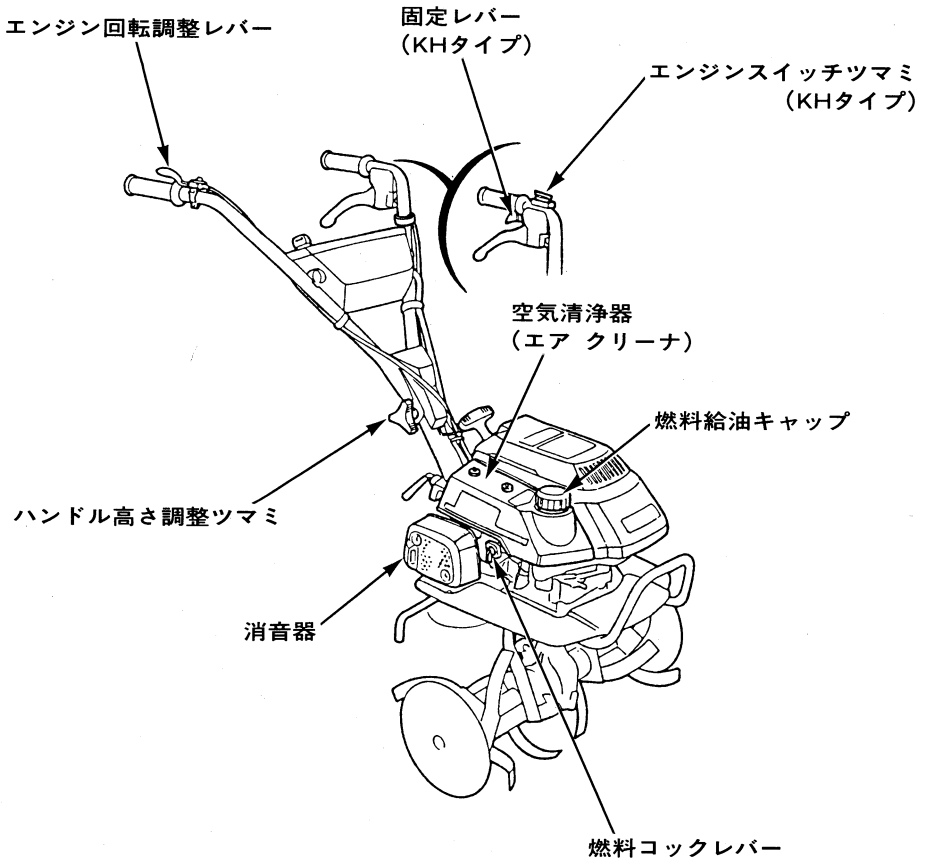
★車軸作業機を取付ける場合は、車軸取付部のガタを必ず確認してください。異常にガタがある場合、そのまま使用すると本機を破損するばかりでなく危険です。お買いあげ販売店へお申しつけください。
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。
★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。
★一酸化炭素中毒にならないようハウス内の換気を十分にしながら使用する。
★ロータを4連以上装着して使用しない、また、おもりを標準以上積載しない。変速機に負荷がかかりすぎギヤ音が大きくなります。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行う。
★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて水平な安定した場所で確実に固定する。
★ガソリン点検補給時、必ずエンジン停止、火気厳禁。
・ガソリンはこぼさない。
・ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。



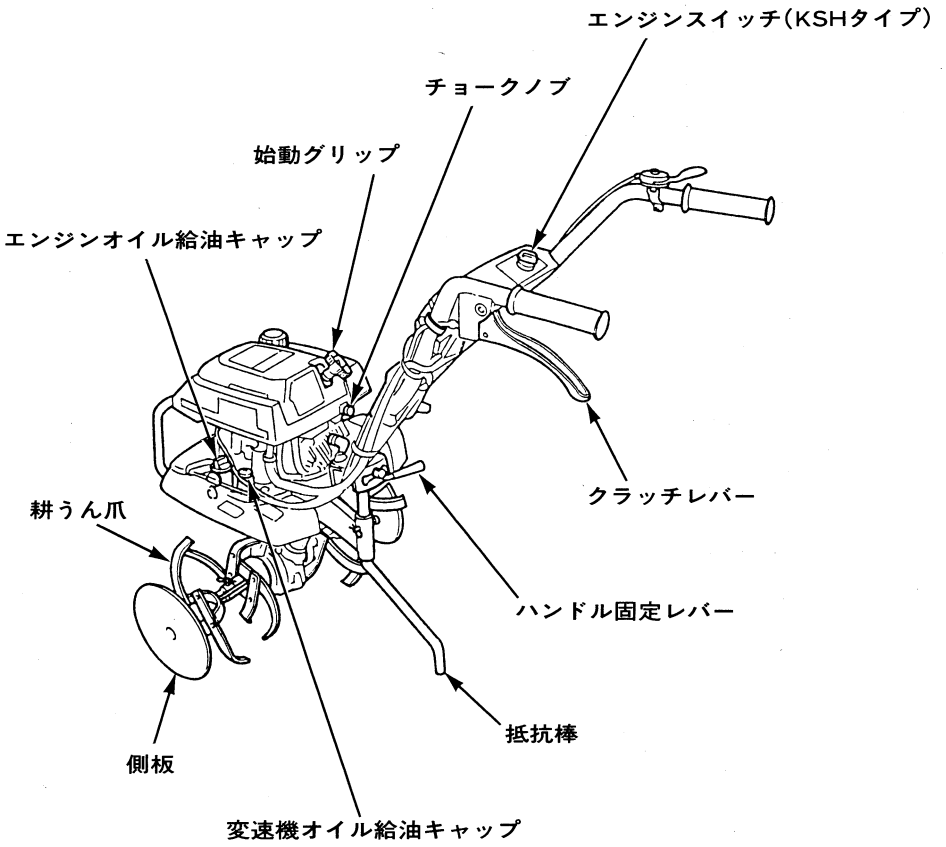
●作業が終ったら

★次の作業のために機械の点検、整備を行う。
★作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行い、前傾及び後傾状態で放置しない。
★トラック等への積降し等は、燃料コックレバーを止にし、転倒や落下に注意する。
★保管は、安定した場所に安全な状態で行う。

各 部 の 名 称 と 取 り


エンジン回転調整レバー
固定レバー
(KHタイプ)
エンジンスイッチツマミ
(KHタイプ)
空気清浄器
(エア クリーナ)
燃料給油キャップ
ハンドル高さ調整ツマミ
消音器
燃料コックレバー

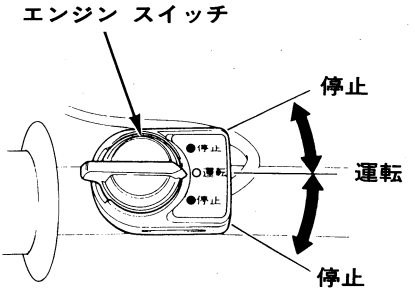
扱いをおぼえましょう


エンジンスイッチ(KSHタイプ)
チョークノブ
始動グリップ
エンジンオイル給油キャップ
クラッチレバー
耕うん爪
ハンドル固定レバー
抵抗棒
側板
変速機オイル給油キャップ

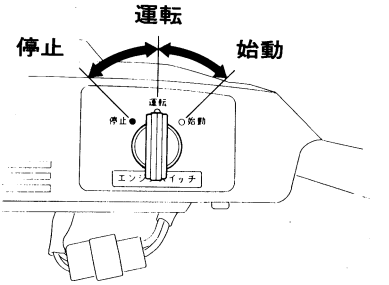
エンジン スイッチ

エンジン スイッチは、エンジンの始動、停止をする時に操作します。

（KHタイプ）



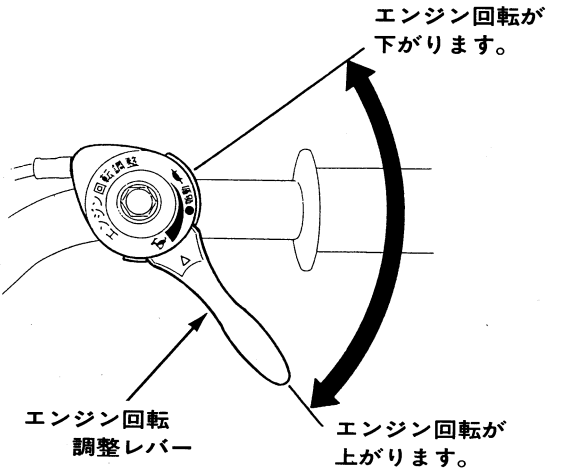
（KSHタイプ）



エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。

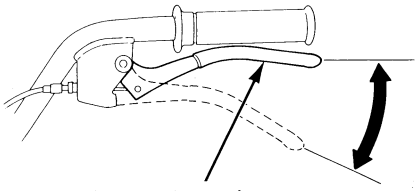
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



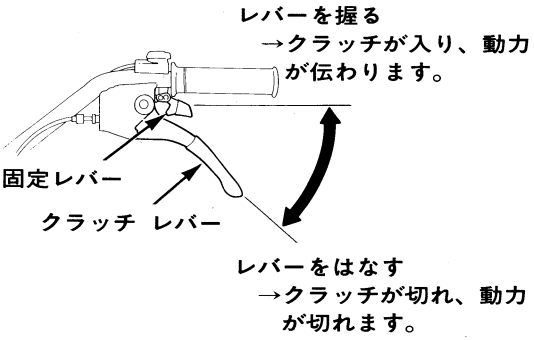
クラッチ レバー

クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。

（KSHタイプ）。



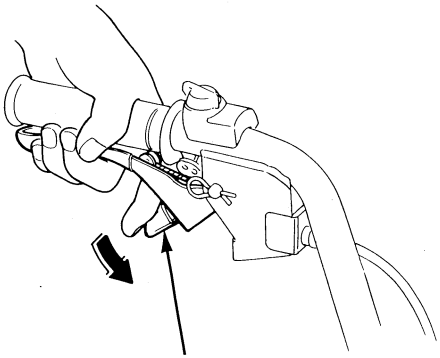
（KHタイプ）



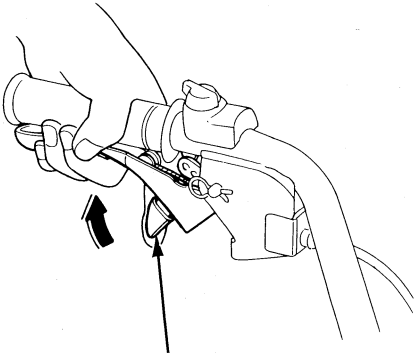
KHタイプ

- クラッチ レバーを握って固定レバーを人指し指で押すとクラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、固定レバーを手前に引き、クラッチ レバーをはなします。

固定

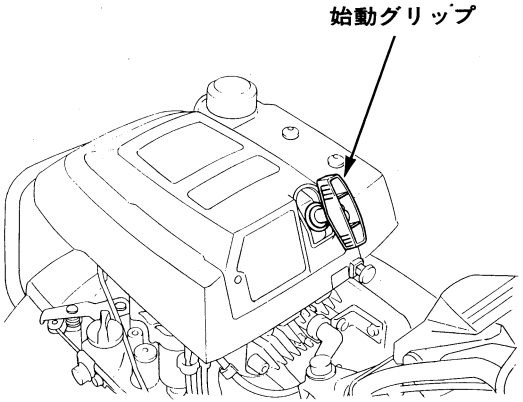


解除



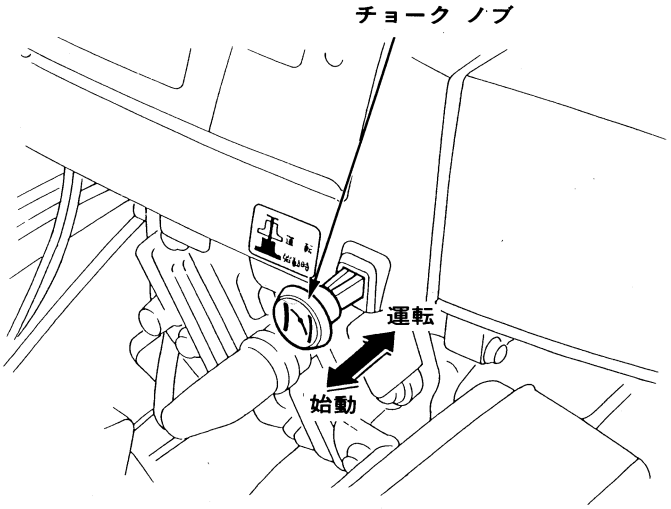
始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。



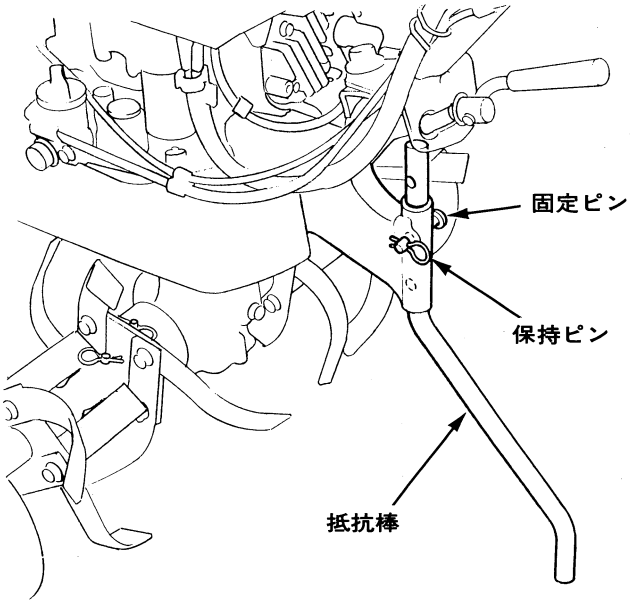
チョーク ノブ

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



作業機取付部

作業機（抵抗棒）等を取付けるところです。
取付けは、使用したい高さで保持ピンを差し込み、固定ピンで固定します。
抵抗棒は上、中、下の３段に調整できます。



ハンドル高さ調整ツマミ

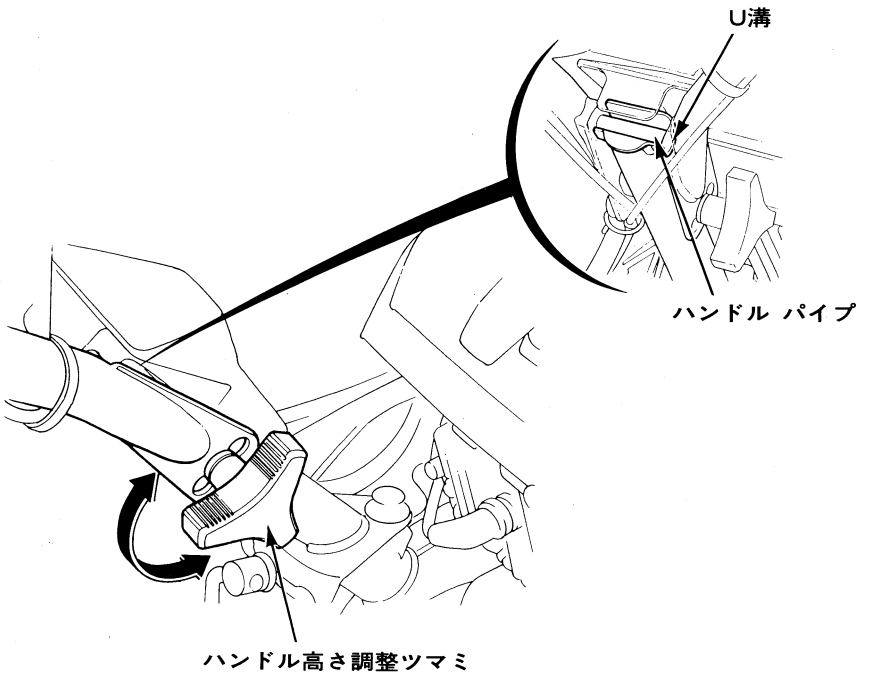
ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるツマミです。

《調整のしかた》

ハンドル高さ調整ツマミをゆるめ、任意の穴へさしかえてハンドルの高さを調整します。

ハンドルの高さは３段階に調整できます。

> 注意
> ・ハンドル高さ調整ツマミは確実に締付けてください。
> ・ハンドル取付け部(U溝)にハンドルのパイプ部が確実に入っていることを確認してください。



ハンドル固定レバー

ハンドルの角度調整時に操作します。

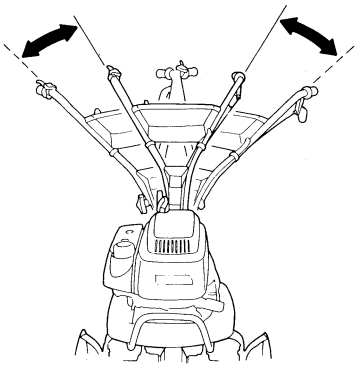
《角度調整のしかた》

ハンドル固定レバーをゆるめて、ハンドルを左右に調整します。

注意
- 調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。
- 調整は必ず、エンジンを停止して行ってください。



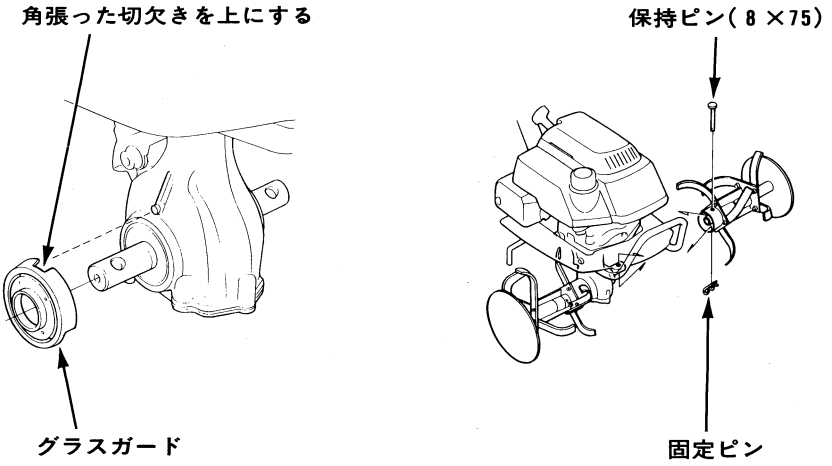
ハンドル固定レバー



耕うん爪

《取付け方》

グラスガード、タインは図のように保持ピンを差し込み、固定ピンで固定します。



注意

・グラスガードは角張った切欠きを上にして取付けます。
・本機を倒れないように確実に支えながら作業を行ってください。

エンジンをかける前に点検しましょう

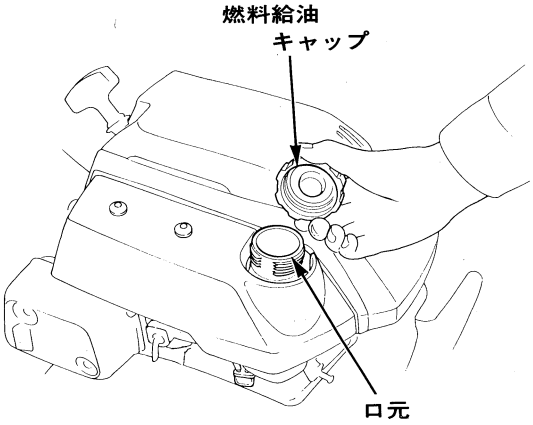
★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行ってください。

ガソリンの点検

点検

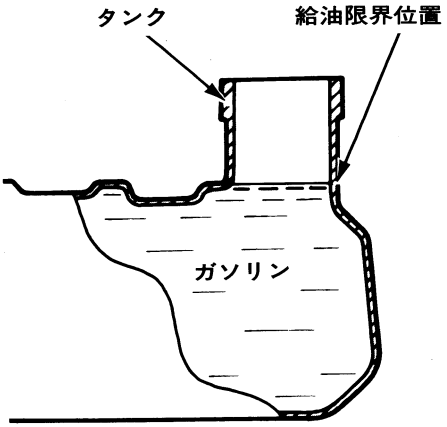
燃料給油キャップを外し、注入口の口元より少なめにガソリンがあるか点検します。

少ない場合は補給してください。



補給

- キャップを外し、注入口の口元より少なめに補給します。
  使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)
  タンク容量：0.9ℓ
- 補給後、キャップを完全に締付けてください。



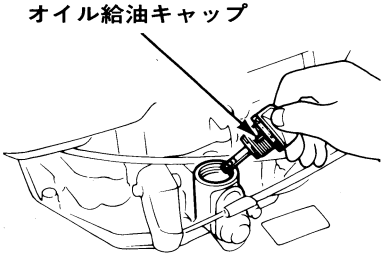
注意

- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- 燃えやすいものは、近くに置かないでください。
- ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。

エンジンオイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。



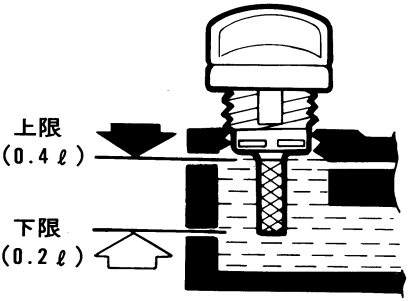
補給

- キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。
- 推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
  ②ウルトラ-U<2輪車用>(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W—30オイルをご使用ください。

> **注意**
> ・低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U<2輪車用>SAE10W—30のオイルをご使用ください。

- 汚れや変色が著しい場合は交換してください(交換時期、方法は33頁参照)

> **注意**
> ・キャップは、手で確実に締付けてください。
> ・締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

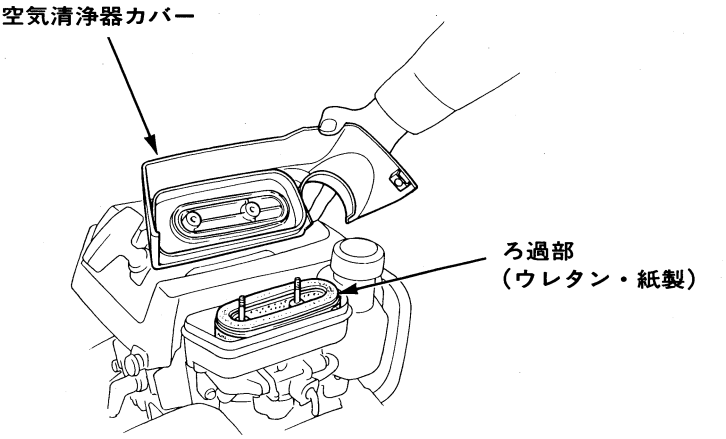


空気清浄器（エア クリーナ）の点検

点検

空気清浄器カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。

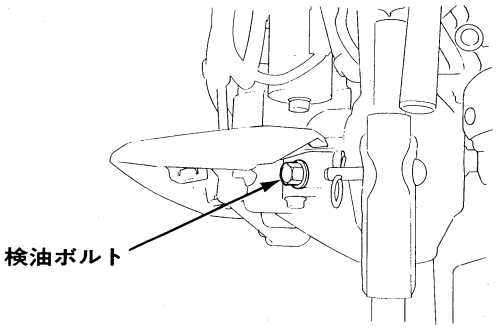
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は36頁参照)



変速機オイルの点検

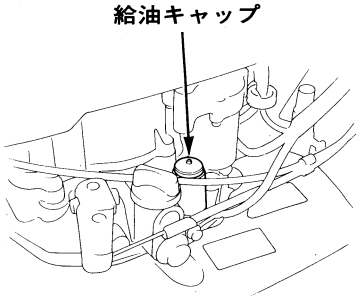
点検

検油ボルトを外し、オイルがにじみ出てくるか点検します。
少ない場合は補給してください。



補給

- 給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルトからにじみ出てくるまで補給します。
  使用オイル：ホンダ純正 汎用寒冷地オイルSE 5 W-30またはAPI分類SE級相当のSAE 5 W-30オイル。
  オイル容量：0.95 ℓ
- 補給後、給油キャップを完全に取付けてください。

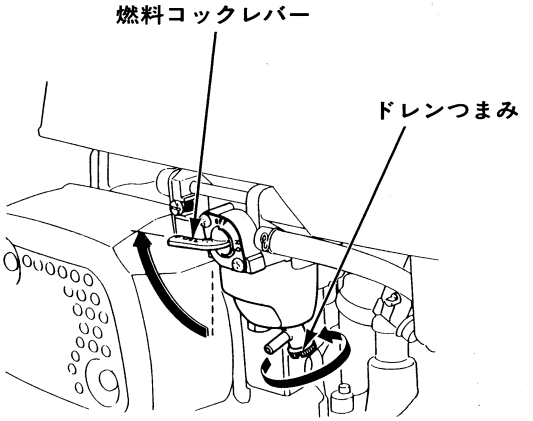


エ ン ジ ン の か け か た

★クラッチ レバーが“切”になっているか確認してからエンジンをかけてください。

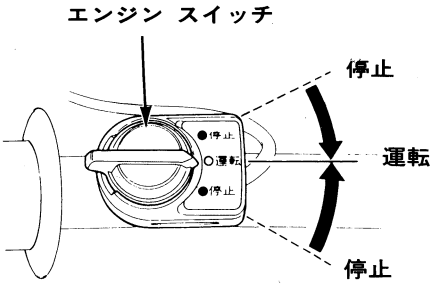
・リコイル スタータを使用する場合

1.燃料コック レバーを**“出”**にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。

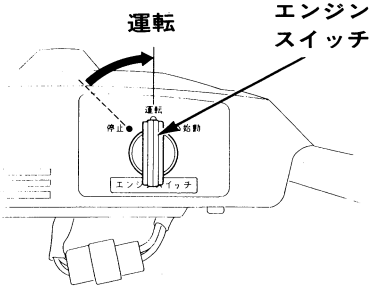


2.エンジン スイッチを**“運転”**にします。

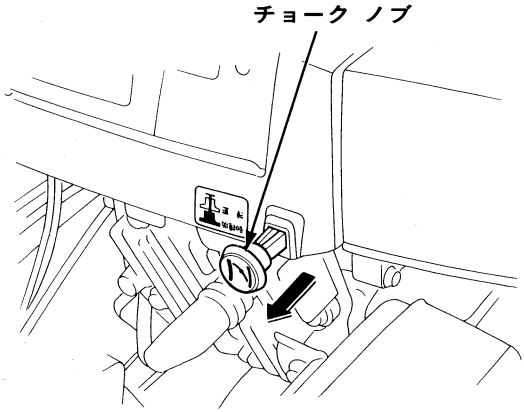
（KHタイプ）



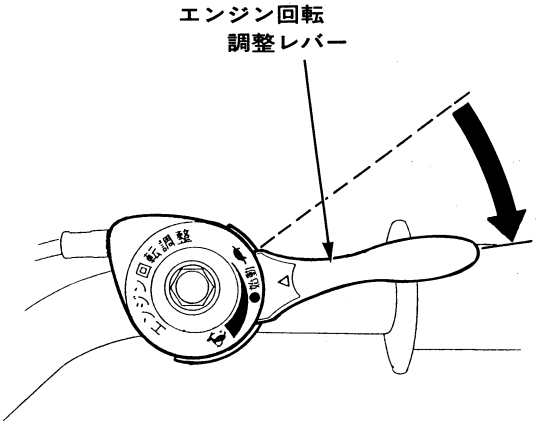
（KSHタイプ）



3.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ノブを**“始動”**の位置にします。



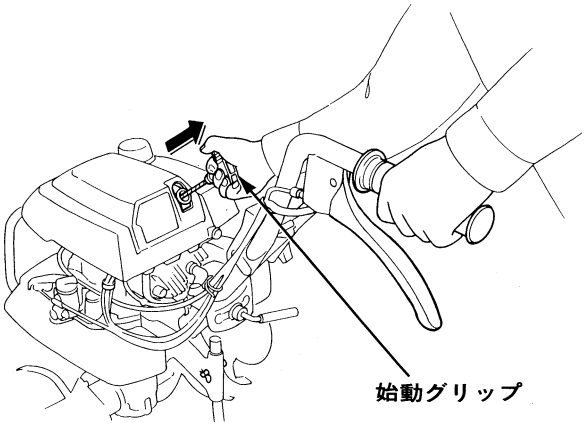
4.エンジン回転調整レバーを“高”方向に少しまわします。



5.始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

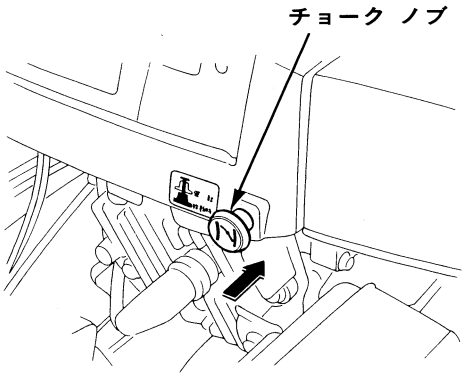
注意

- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



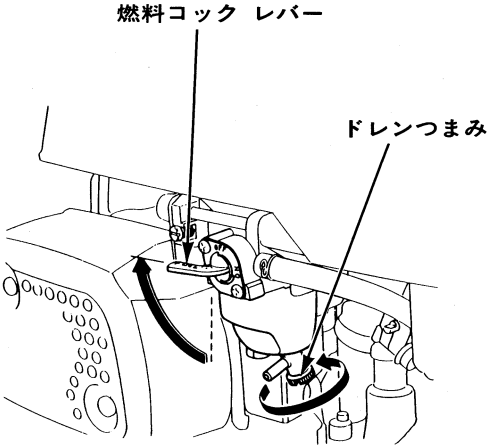
6.２～３分間暖機運転を行います。

チョーク ノブを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら**“運転”**の位置に戻します。

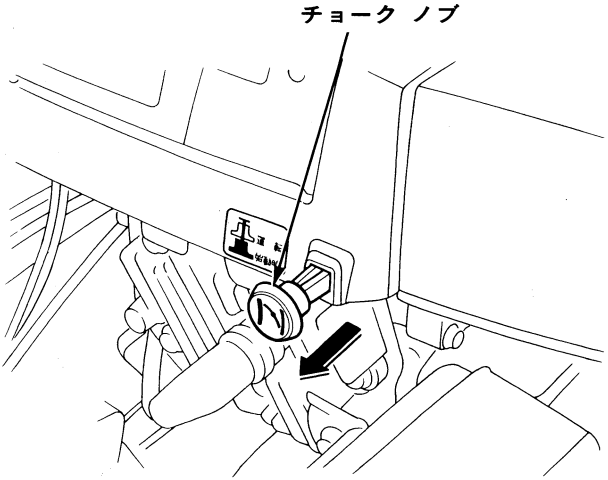


・セル スタータを使用する場合(KHSタイプ)

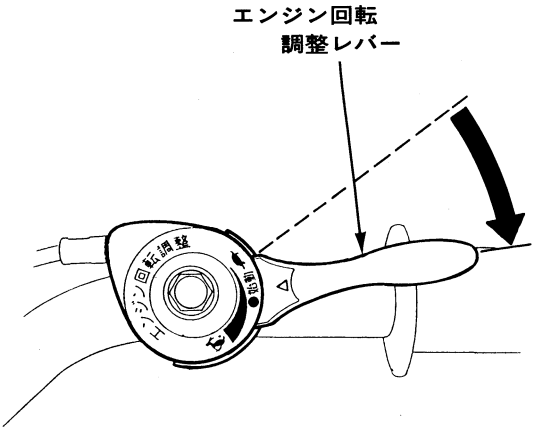
1.燃料コック レバーを**“出”**にします。ドレンつまみが確実にしまっていることを確認してください。



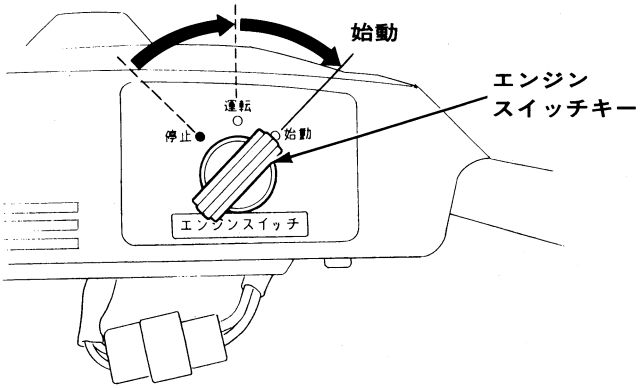
2.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ノブを**“始動”**の位置にします。



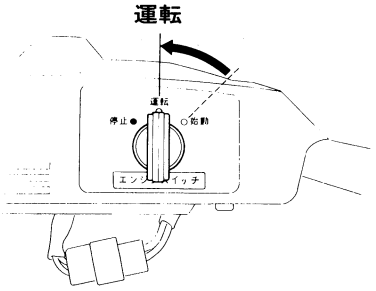
3.エンジン回転調整レバーを“高”方向に少しまわします。



4.エンジン スイッチ キーを差し込み**“始動”**の位置まで回します。



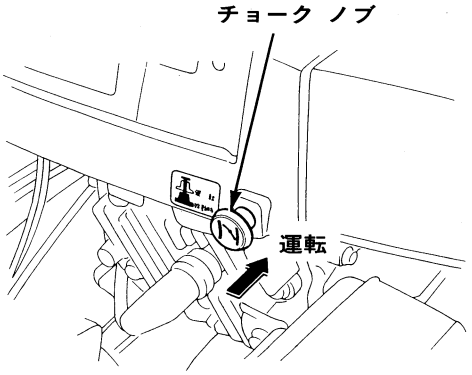
5.エンジンが始動したら、スイッチを**“運転”**の位置にもどします。



注意　エンジンが始動した後、スイッチを“始動”の位置にしたままですと、始動装置を損傷させる原因となります。

6.２～３分間暖機運転を行います。

チョーク ノブを操作した時は、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻して**“運転”**の位置にしてください。



運　転　操　作　の　し　か　た

★安全な作業を行うために、十分に理解して行ってください。

運　転

1.クラッチ レバー

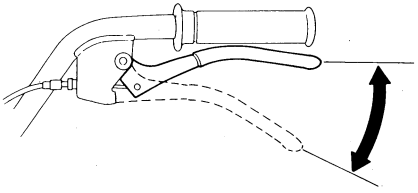
クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行います。

急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

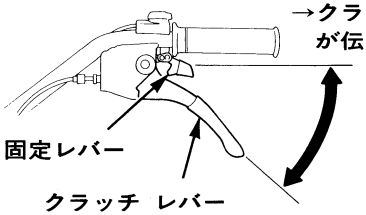
レバーを握る→クラッチ**“入”**→動力伝わる。

レバーをはなす→クラッチ**“切”**→動力切れる。

（KSHタイプ）



（KHタイプ）



KHタイプ

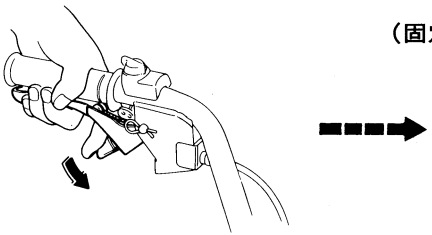
固定レバー（KSHタイプを除く）

固定レバーを操作することにより、クラッチ レバーは握ったままの状態が保持できます。

固定レバーを使用する場合は十分クラッチ操作に慣れてから、又広い耕地及び身近に障害物のない場所で使用してください。

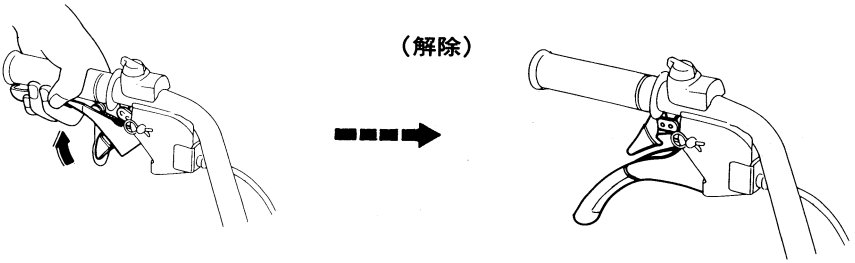
●クラッチ レバー固定のしかた

クラッチ レバーを握って固定レバーを人差し指で押すとクラッチ レバーは固定されます。



● クラッチ レバー固定解除のしかた

解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、クラッチ レバーを放します。

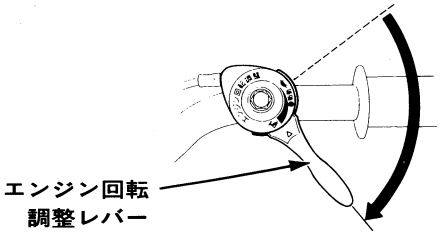


注意

・固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
・固定レバーを使用し作業を行う時は、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。
・固定レバーの使用は、片手運転や長時間運転するときのみ使用してください。

2. エンジン回転調整レバー

レバーを“**高**”方向にまわし、エンジン回転を上げます。



注意

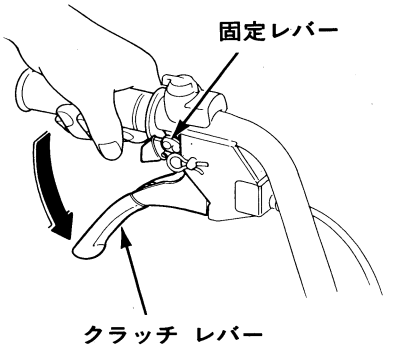
・本機を持ち上げる時は必ずエンジンをとめてください。
ロータが回転し、衣類等を巻込み大変危険です。

エンジンのとめかた

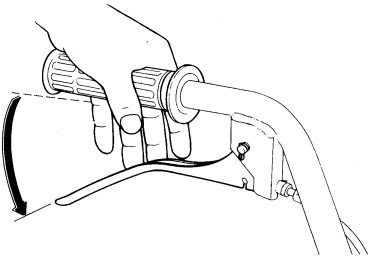
1.クラッチ レバーを“切”にします。

● クラッチ レバーが固定されている場合は固定レバーを引いてからクラッチ レバーをはなして“切”にします。

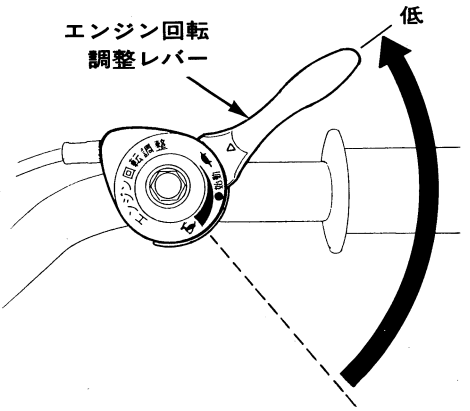
（KHタイプ）



（KSHタイプ）

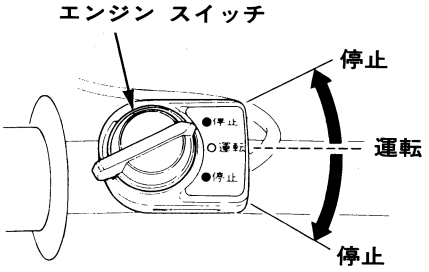


2.エンジン回転調整レバーを“低”の位置に戻します。

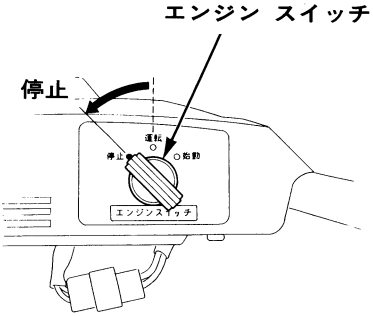


3.エンジン スイッチを“**停止**”にします。

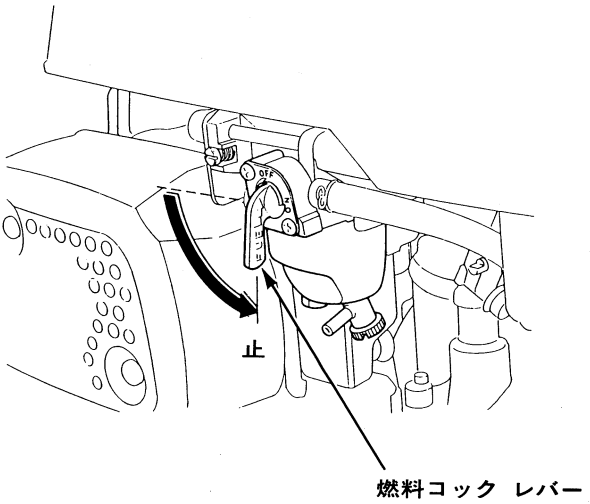
（KHタイプ）



（KSHタイプ）



4.燃料コック レバーを“**止**”にします。

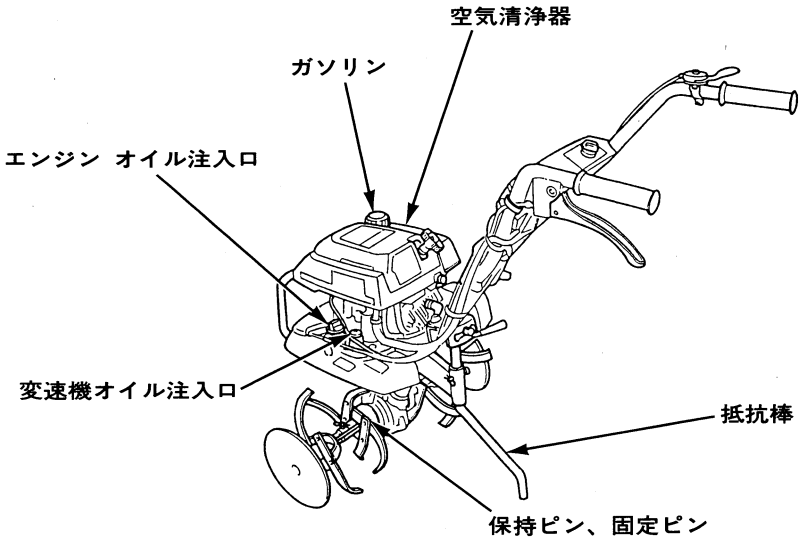


定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- エンジン オイル……
  - 規定量入っているか。
  - 洩れはないか。
- 変速機オイル……
  - 規定量入っているか。
  - 洩れはないか。
- 空気清浄器 ……汚れていないか。
  （エア クリーナ）
- ガソリン……残量
- 異常箇所……前日悪かった所
- 各部の締付け……
  - ハンドル高さ調整ツマミ、ハンドル固定レバーにゆるみ、がたはないか。
  - 耕うん爪の保持ピン、固定ピンの抜け、付け忘れはないか。
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきましたティラーをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期		作業前点検	初回 20時間目	50時間運転毎	100時間運転毎	300時間運転毎又は1年に1回
エンジン オイル〈注1〉	点検	○				
	交換		○		○	
変速機オイル〈注1〉	点検	○				
空気清浄器	点検	○				
(エアクリーナ)	清掃			○〈注2〉		
燃料ろ過器	点検	○〈注3〉				
	清掃				○	
クラッチ ワイヤ	調整		○		○	
点火プラグ	清掃 調整				○	
エンジン回転調整ワイヤ	調整					○
クラッチ シュー	交換					○〈注4〉
吸入・排気弁すき間	点検 調整					○〈注4〉
燃焼室 (バルブ摺合せを含む)	清掃					○〈注4〉
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃					○〈注4〉
燃料チューブ	点検	2 年 毎〈注4〉				
	交換	4 年 毎〈注4〉				

〈注1〉 エンジンオイル……稼動期前にも必ず交換してください。
変 速 機オイル……稼動期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい場合は交換してください。
〈注2〉 ほこりの多い作業の時は10時間毎又は1日1回清掃してください。
〈注3〉 水、ゴミ等がろ過器のカップ部にたまったときはそのつど清掃を行ってください。
〈注4〉 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

やさしい点検・整備

★点検・整備は平担な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行ってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《推奨オイル》

ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)

②ウルトラ—U〈2輪車用〉(SAE10W—30)

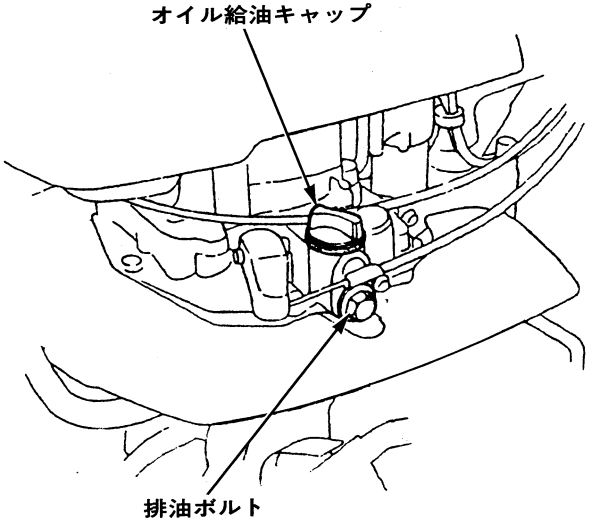
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W—30オイルをご使用ください。

注意

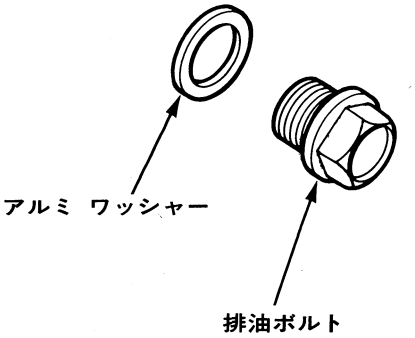
・低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ—U〈2輪車用〉SAE10W—30のオイルをご使用ください。

《規定量》　0.4ℓ

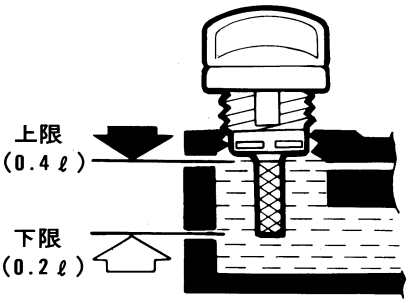
1.オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。



2.オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。その時、アルミワッシャーを忘れずに取付けてください。



3.エンジン オイルを給油キャップのレベル ゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。)
4.注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



注意

- エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期時に点検・交換を行いましょう。

空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

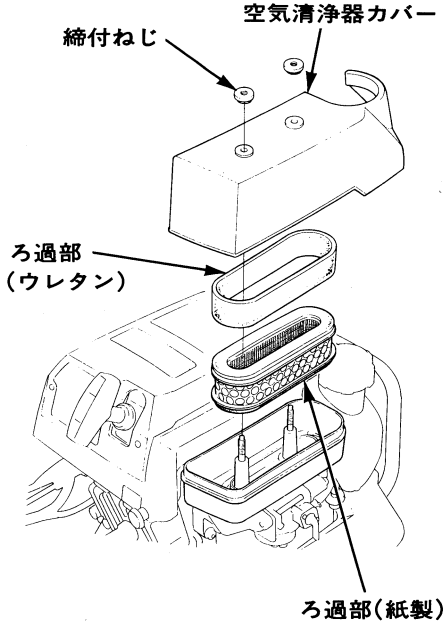
空気清浄器が目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

1. 締付ねじをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。
2. ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるか又はよく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、又は軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



注意

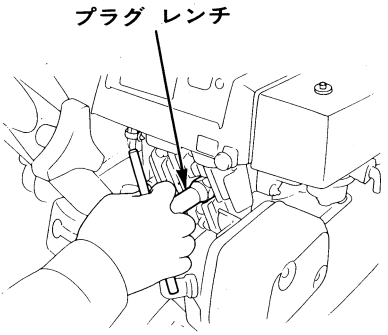
- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極のすきまが不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

100時間運転毎



《清　　掃》

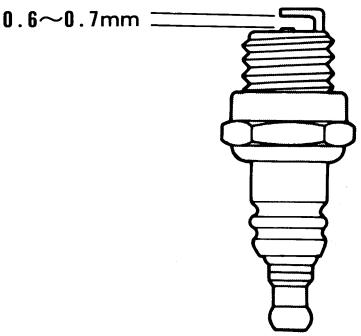
1.プラグレンチで点火プラグを取外します。

2.プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

●プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落してください。

《調　　整》

●側方電極をつめ、火花すきまを0.6～0.7mmに調整します。



《標準プラグ》

BM4A　（NGK）

W14M-U　（NIPPONDENSO）

注意

・標準以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

エンジン回転調整ワイヤの調整

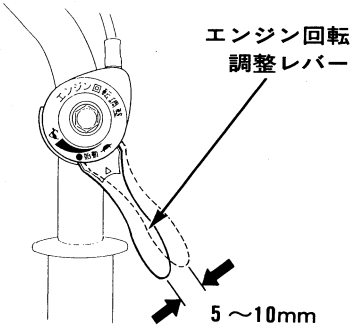
エンジン回転調整ワイヤの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

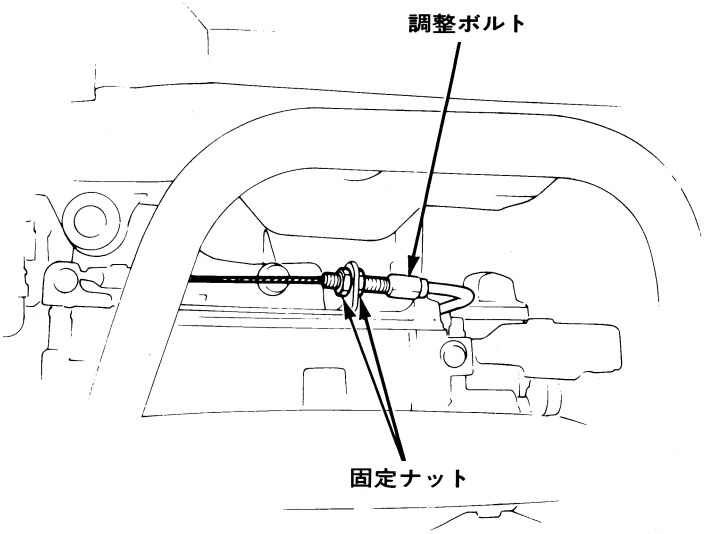
《調整時期》

300時間運転毎または１年１回

《調　　整》

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で５～10mmになるように調整します。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ボルトをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





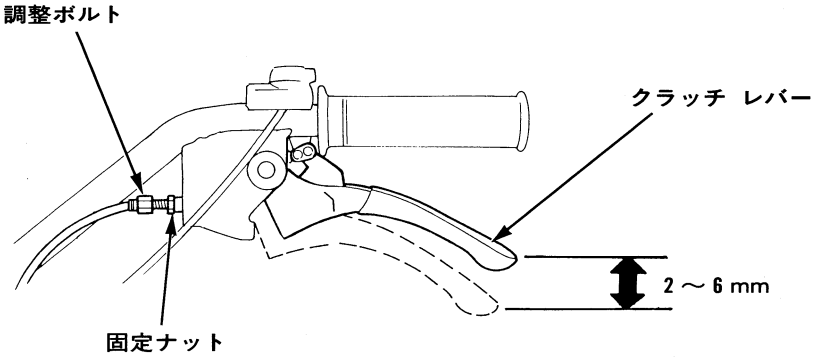
クラッチ ワイヤの調整

クラッチ ワイヤの調整が完全でないとクラッチがすべります。

《**調整時期**》初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《**調　　整**》

1. クラッチ レバーの遊びがレバー先端で 2 ～ 6 mmになるように調整します。調整は固定ナットをゆるめ調整ボルトで行います。



2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

注意　クラッチ ワイヤ調整時には、必ずエンジンを止めてください。突然車軸が回転することがあります。

燃料ろ過器の清掃

燃料ろ過器の中に水がたまったり、フィルタが目詰りをすると出力不足始動不良をおこしますので定期的に清掃しましょう。

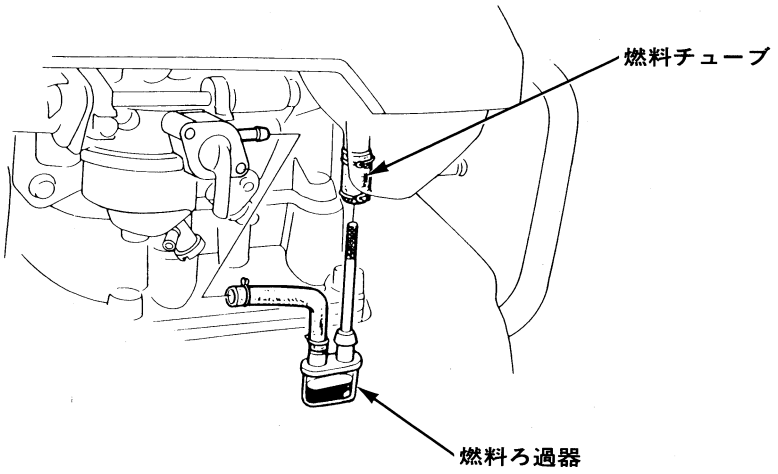
《清掃時期》

100時間運転毎

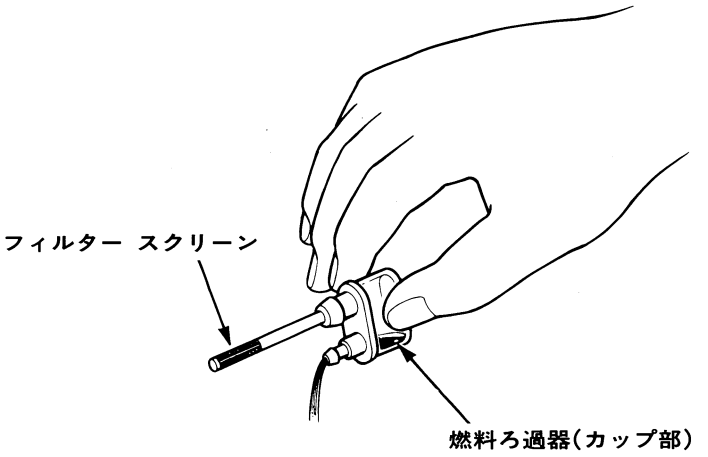
> 注意
> ・燃料を抜く時は火気厳禁。
> ・風通しの良い場所で行ってください。
> ・抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

1.燃料コックを“止”の位置にして燃料チューブを燃料コックから外して、タンク内のガソリンを容器に受けてください。

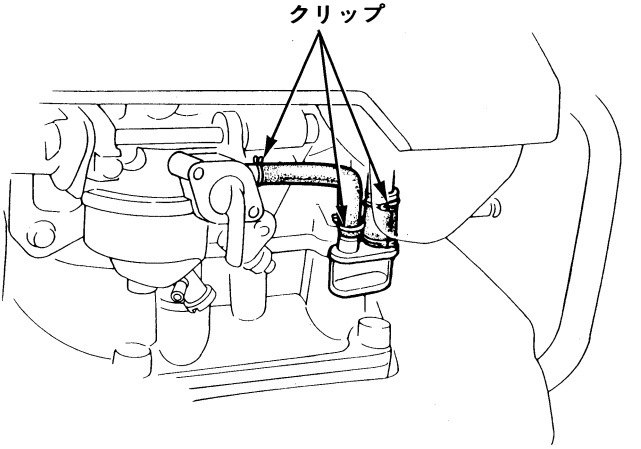
2.ガソリンが完全に抜けたら、燃料ろ過器を燃料チューブから外します。



3.燃料ろ過器(カップ部)の水、ゴミ等を容器に受けて、フィルタ スクリーン及び燃料ろ過器を清掃してください。



4.清掃が終ったら燃料ろ過器を元の状態にもどして、燃料チューブをクリップで確実に取付けます。



注意

・燃料ろ過器、燃料コック、燃料チューブからガソリンがもれていないか点検してください。

長期間使用しない時の手入れ

★長時間運転しない場合、または作業を終り長時間格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外してください。

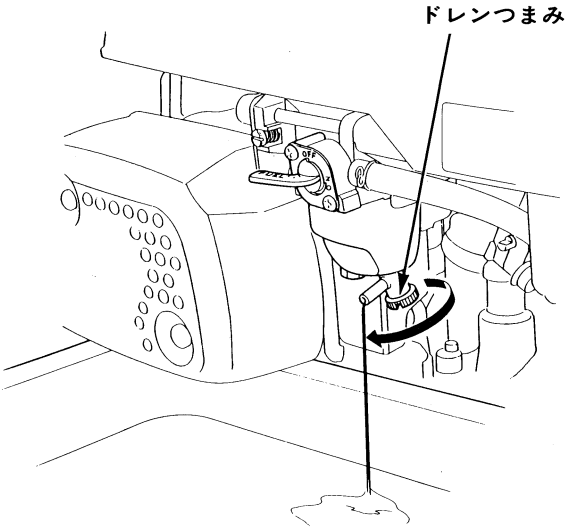
①燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

<抜き方>

1.燃料コックレバーを**"出"**に合わせ、気化器のドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ気化器及び燃料タンク内のガソリンを抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。

注意

- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。
- ドレンつまみがゆるんでいると燃料がもれ引火する場合があります。



2.完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実に締付け、燃料コック レバーを**"止"**にしてください。

2エンジン オイルを交換してください。(交換方法は34、35頁参照)

3空気清浄器を清掃してください。(清掃方法は36頁参照)

4バッテリの補充電を行ってください。(KSHタイプのみ充電方法は44頁参照)

5始動グリップを引き重くなったところで止めてください。

6抵抗棒を正規に取付けて、風通しの良い場所に保管して下さい。

注意 抵抗棒を外し、ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

バッテリの補充電(KSHタイプのみ)

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は補充電を行ってください。

保管中、6ヵ月に一度、指定された充電器(別売り)で補充電を行ってください。

補充電のしかた

●指定充電器

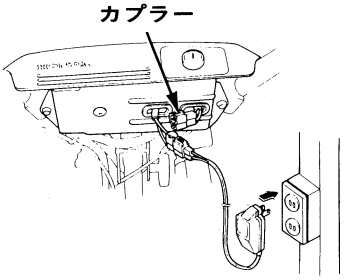
部品名：バッテリ充電器NC—1410A

部番：31670—737—711

①カプラの接続を外します。

②充電器のリード線カプラをメス側カプラに接続します。

③充電時間：24時間



注意　・バッテリの充電は通気の良い場所で行ってください。

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン オイルは注入口、口元までありますか？
- 燃料ろ過装置カップ部の中に水やゴミが入っていませんか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。

プラグを取外し、プラグ キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。)、エンジン スイッチを**“運転”**の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

> 注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

主クラッチが作動しない時は次の点を確めましょう。

- クラッチ ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？

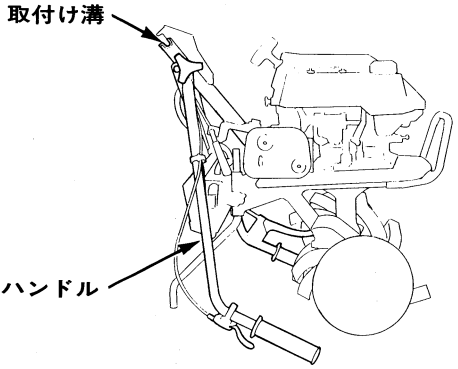
〜〜〜〜〜〜少し時間をおいて
もう一度確めましょう〜〜〜〜〜〜

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

車への積載のしかた

1.燃料タンク、気化器のガソリンを抜きます。(抜き方は42頁参照)

2.ハンドル高さ調整ツマミをゆるめ、ロア ハンドルのU溝からハンドルを外し、ハンドルを図のように折りたたみます。



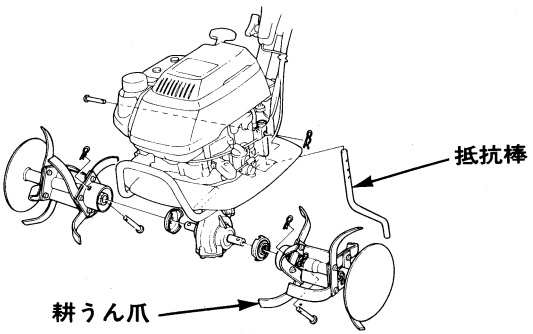
注意

- 車に積載する時は必ず燃料タンク、気化器のガソリンを抜いてください。ガソリンが漏れるときがあります。
- 本機を後に傾けて積載しないでください。始動困難になることがあります。
- 耕うん爪を外して積載したときは、必ずグラスガードを忘れないで取付けてください。

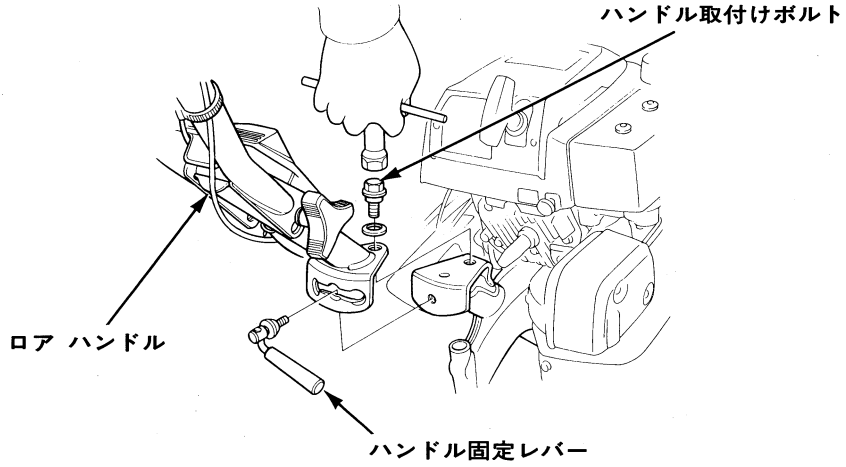
乗用車への積載は、次の要領で行ってください。

1.バッテリのカプラを外します。(KSHタイプのみ)

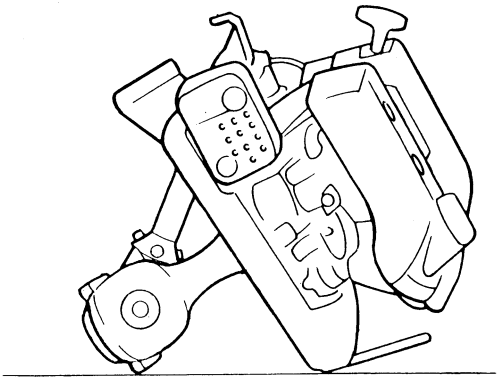
2.耕うん爪及び抵抗棒を取外します。



3.ハンドル取付けボルト、ハンドル固定レバーを外し、ロア ハンドルを本機から取外します。



4.ハンドル フレームを上方に外し、本機を前方に倒した状態で車のトランクに積載します。



主　要　諸　元

型式			F210	
区分			KH	KSH
機体寸法	全長(mm)		1,070	
	全幅(mm)		585	585
	全高(mm)		960	960
重量(kg)			28.5	31.0
エンジン	名称		ホンダGV100K1	
	形式		空冷4サイクル1気筒横形ガソリン	
	総排気量(cc)		90	
	出力／回転速度(PS/rpm)		1.4/3600　最大(2.4PS)	
	使用燃料		ガソリン(レギュラ)	
	燃料タンク容量(ℓ)		0.9	
	点火方式		トランジスタマグネト	
	始動方式		リコイル スタータ	セル スタータ リコイル スタータ併用
主クラッチ方式			シュークラッチ	
変速段数			前進1段	
安全鑑定適合番号			802047	

注・〈 〉は、ロータ付の寸法です。

・諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

同梱部品の組み付けかた

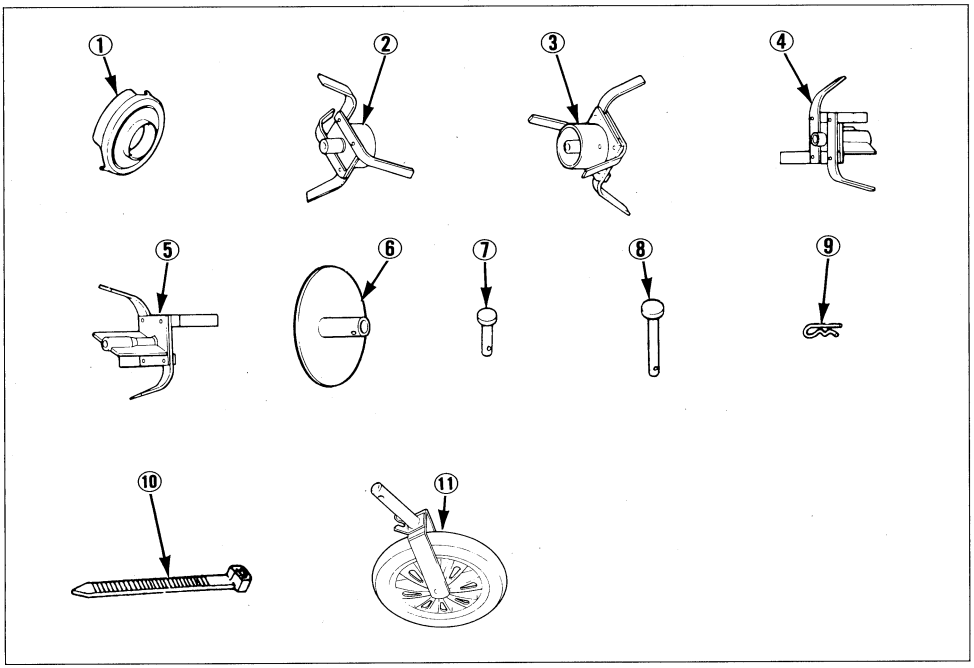
次の手順と要領で同梱部品を組み付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け関係は同じですので御了承ください。

注意　作業は必ず二人以上で行い、一人が取付ける間は、もう一人が本機を支えるなどして、安全には十分注意してください。

●同梱部品リスト

（　）KSHタイプのみ

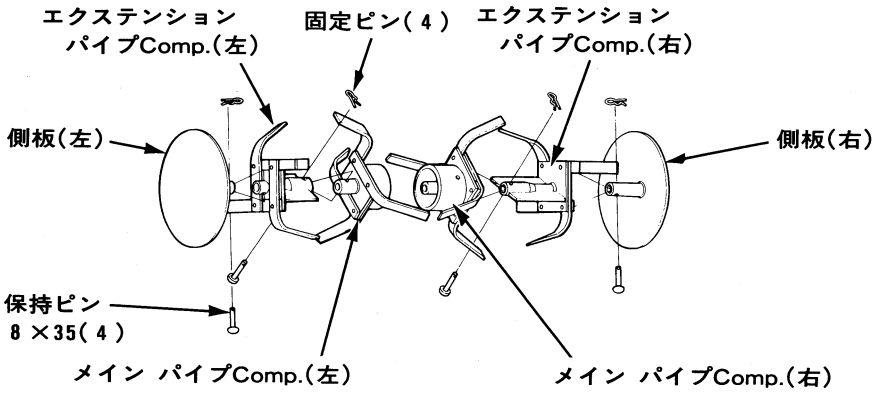
No.	部　品　名	個数	No.	部　品　名	個数
①	グラス ガード 注1	2	⑧	保持ピン	2
②	メイン パイプComp.(左)	1	⑨	固定ピン	6
③	メイン パイプComp.(右)	1	⑩	ワイヤ バンド	2（3）
④	エクステンションパイプComp(左)	1	⑪	移動式ホイール	1
⑤	エクステンションパイプComp(右)	1			
⑥	側板 注1	2			
⑦	保持ピン（8×35）注1	4			



●グラス ガード、タイン

メイン パイプComp.、エクステンション パイプComp.、側板を、保持ピン 8 ×35、固定ピンで図のように組立てます。

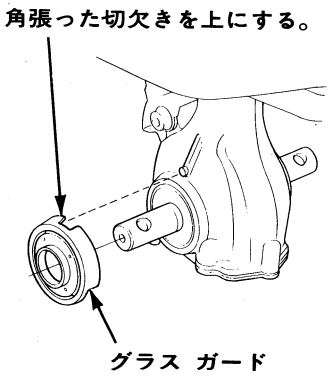
・“L”の刻印のあるものは左側、“R”の刻印のあるものは右側に組付けます。

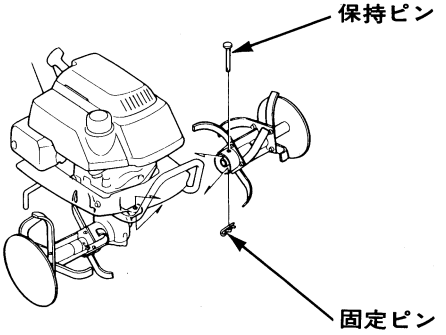


グラス ガードを取付け、左右のタインを保持ピンと固定ピンで本機に取付けます。

・グラス ガードの角張った「切欠き」を上にして取付けます。

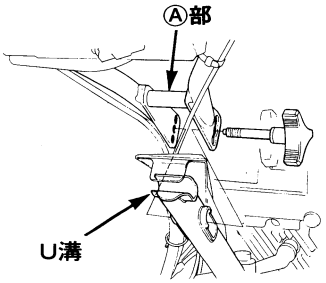
・本機が倒れないように支えながら、タイン小組を取付けます。





●ハンドル

図の様にU溝にⒶ部を取付け、ハンドル高さ調整ツマミで確実に締付けます。

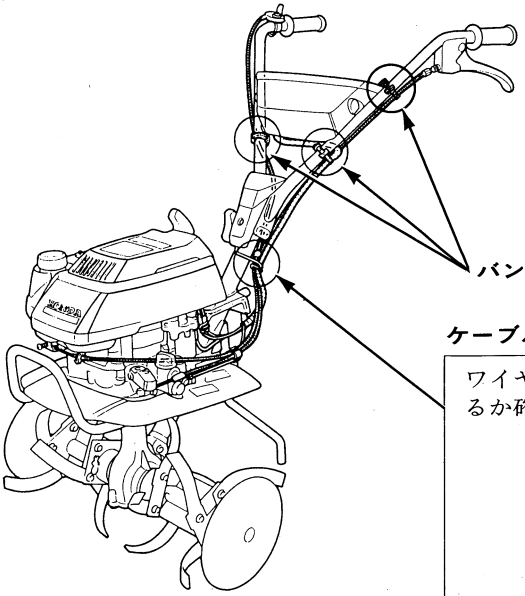




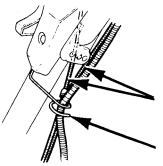
●ワイヤリング

・バンドとケーブルガイドを使って図のように止めます。

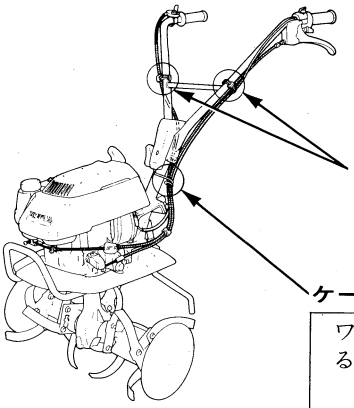
(F210KSH)



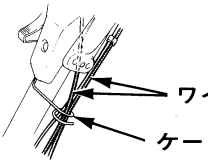
ワイヤがケーブルガイドの中を通っているか確認してください。



●バンドとケーブルガイドを使って図のように止めます。
(F210KH)

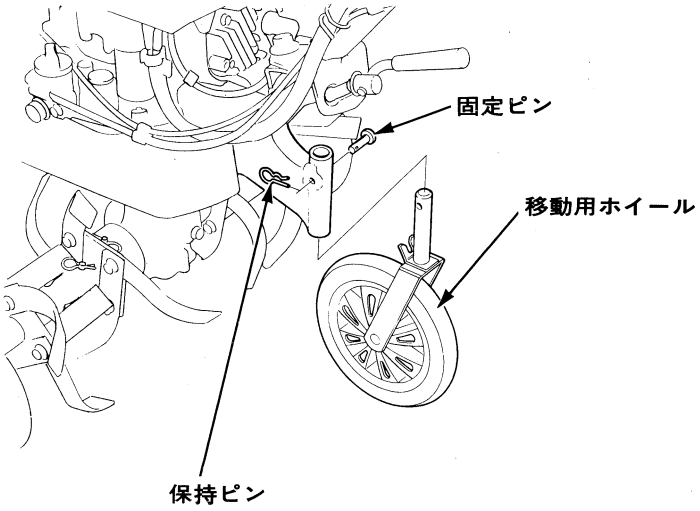


ワイヤがケーブルガイドの中を通っているか確認してください。

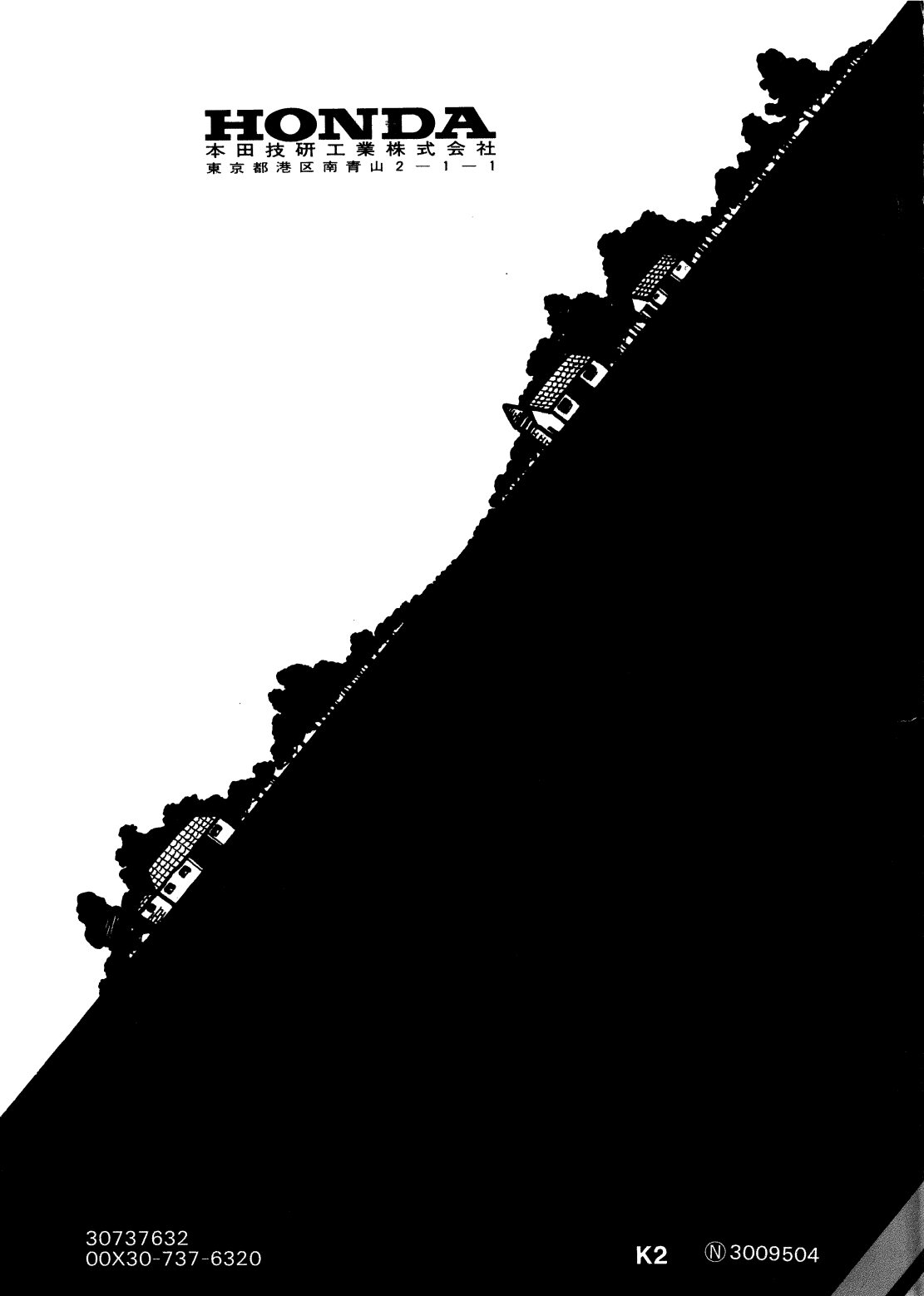


●移動用ホイール

・移動時は抵抗棒を外し、移動用ホイールを図のように取付けます。



HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１



30737632
00X30-737-6320

K2 Ⓝ3009504